

火山灰と降灰予報

噴火によって火口から放出される固形物のうち、比較的細かいもの（直径2mm未満）を「火山灰」と呼びます。火山灰は上空の風に乗って広い範囲に飛散し、交通機関や農作物など様々なものに被害をもたらします。例えば、航空機のエンジンに火山灰が吸い込まれるとエンジンが損傷するおそれがあり大変危険です。また、火山灰が農作物に付着すると、生育不良や品質低下につながる可能性があります。

気象庁では、火山灰による影響に備えていただくため、どこでどの程度降灰が予想されるかを示す「降灰予報」を発表しています。噴火の状況（噴火前・噴火直後・噴火後）に応じて、「定時」「速報」「詳細」の3種類の降灰予報を発表します。また、降灰量は「多量」「やや多量」「少量」の3階級で表現されます。

オホーツク管内でも、過去に降灰が確認された事例があります。1962年の十勝岳の噴火では、火山灰が北見市や網走市まで達しました。また、1996年の雌阿寒岳の噴火では、津別町や美幌町で降灰が確認されました。現在（2026年7月時点）、十勝岳および雌阿寒岳では、噴火警戒レベル2（火口周辺規制）が発表されており、平常時と比べて火山活動の活発な状態が続いています。特に雌阿寒岳については、降灰予報（定時）が定期的に発表されており、風向きによっては降灰予想範囲がオホーツク海側まで広がることがあります。降灰の影響に備えるため、噴火が発生した場合には、気象庁の降灰予報をご活用ください。



降灰予報の発表例(気象庁ホームページより)

問い合わせ先 網走地方気象台（電話：0152-43-4349）



気象庁ホームページ
「降灰予報の説明」